

決算補足説明資料

FY22 2Q

2022年08月12日

ノーリツ鋼機株式会社
証券コード：7744（東証プライム市場）

NORITSU

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている当社の現在の計画、戦略等のうち、歴史的事実でないものは、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は、様々な要因やリスクにより大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。

■ 事業EBITDAについて

事業EBITDAは、営業利益から、その他の収益・費用を加減し、減価償却費及び償却費（使用権資産の減価償却費を除く）を加えて算出しております。
連結財務諸表上に定義されていない指標であるものの、非経常的な損益や償却費に左右されない企業の本来の収益力を示すことから、連結財務諸表の利用者がノーリツ鋼機の業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て

比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

当期利益：親会社の所有者に帰属する当期利益

FY21：2021年12月期

FY22：2022年12月期

■ セグメント変更について

- 事業ポートフォリオの再編により、コア事業を「ものづくり」と再定義
- 報告セグメントもFY22から下記のとおり変更



FY22 2Q累計 連結業績

- 売上収益、営業利益は、増収減益予想の通りとなるも、AlphaThetaの好調な販売等により進捗率高く着地
- 当期利益は、株式売却益等により大幅増益
- テイボーは、筆記は堅調に推移するも、MIMは1Qに続き2Qも顧客の生産調整の影響を受け伸び率が鈍化
- AlphaThetaは、部品の需給逼迫の状況は続くも、置換設計や市中在庫の確保等の対応を進め、大きく伸長
- JLabは、米国の家電小売市場の落ち込みにより苦戦するも、シェアを拡大。物流費の高騰等により収益性が低下
- ウクライナ情勢による販売影響は、テイボーとJLabは僅少、AlphaThetaは売上収益にして数億円の影響があったが、他の地域の販売強化により挽回

FY22 通期連結業績予想

- 売上収益は前回予想から上方修正するが、営業利益は、リードタイム長期化やコスト上昇等の影響が当面続くものと想定し、前回予想を据え置き
- 個社別では、テイボーは下方修正、AlphaThetaは上方修正、JLabは売上収益のみ上方修正

Contents

1. **FY22 2Q累計 連結業績**
2. **FY22 通期連結業績予想**
3. **トピック**

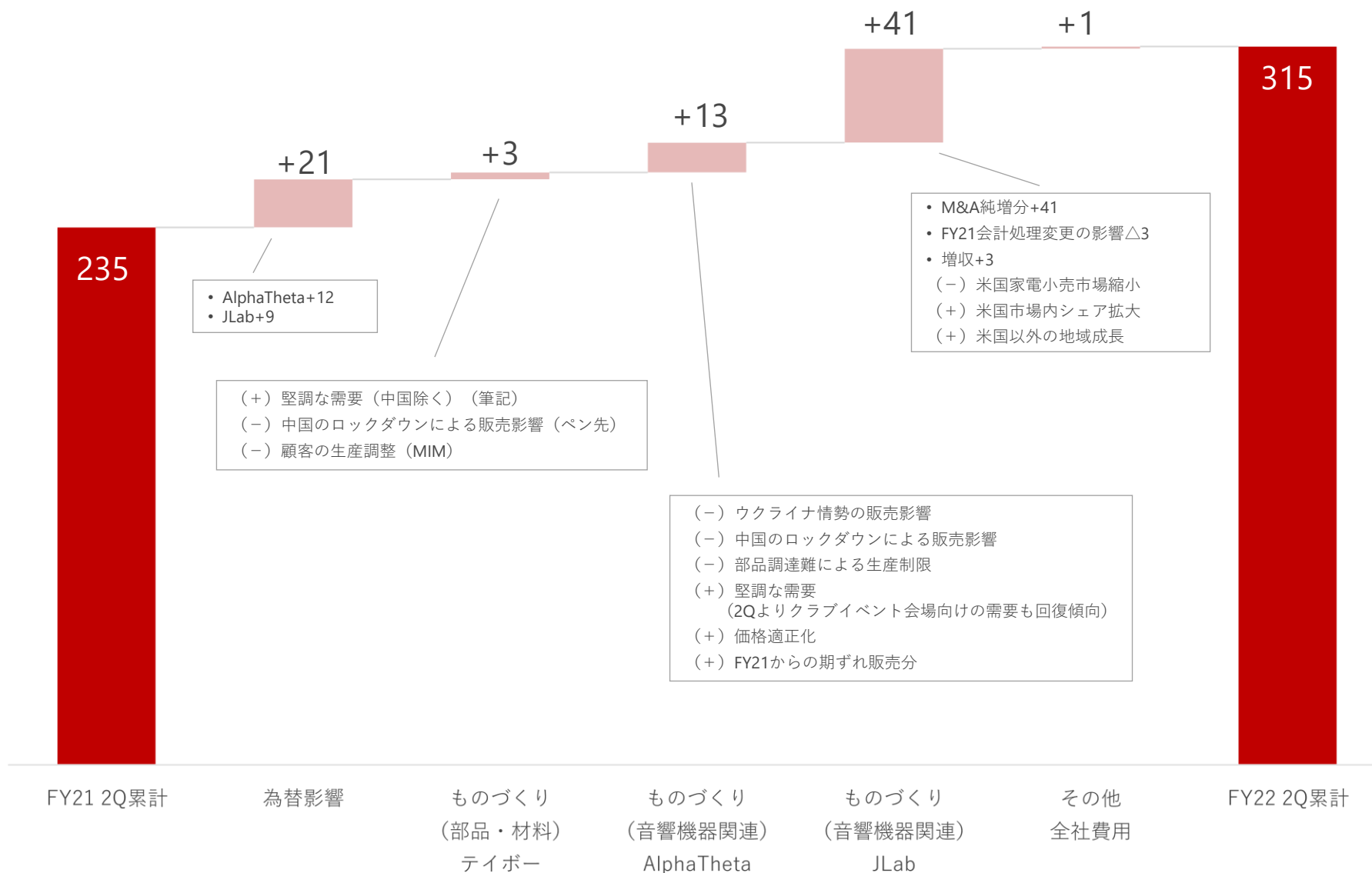
- 売上収益、営業利益は、増収減益予想の通りとなるも、AlphaThetaの好調な販売等により進捗率高く着地
- 当期利益は、株式売却益等により大幅に増益

単位：百万円	FY21 2Q累計	FY22 2Q累計	増減額	増減率
売上収益	23,530	31,536	+8,006	+ 34.0%
事業EBITDA	6,110	5,049	△1,061	-17.4%
事業EBITDAマージン	26.0%	16.0%	-10.0%	-
営業利益	3,605	3,267	△337	-9.4%
当期利益	1,660	101,121	+99,461	+ 5,990.3%
為替レート (平均)	米ドル (円) 107.7	122.9	+15.2	-
	ユーロ (円) 129.8	134.3	+4.5	-
為替レート (期末)	米ドル (円) 110.6	136.7	+26.1	-
	ユーロ (円) 131.6	142.7	+11.1	-

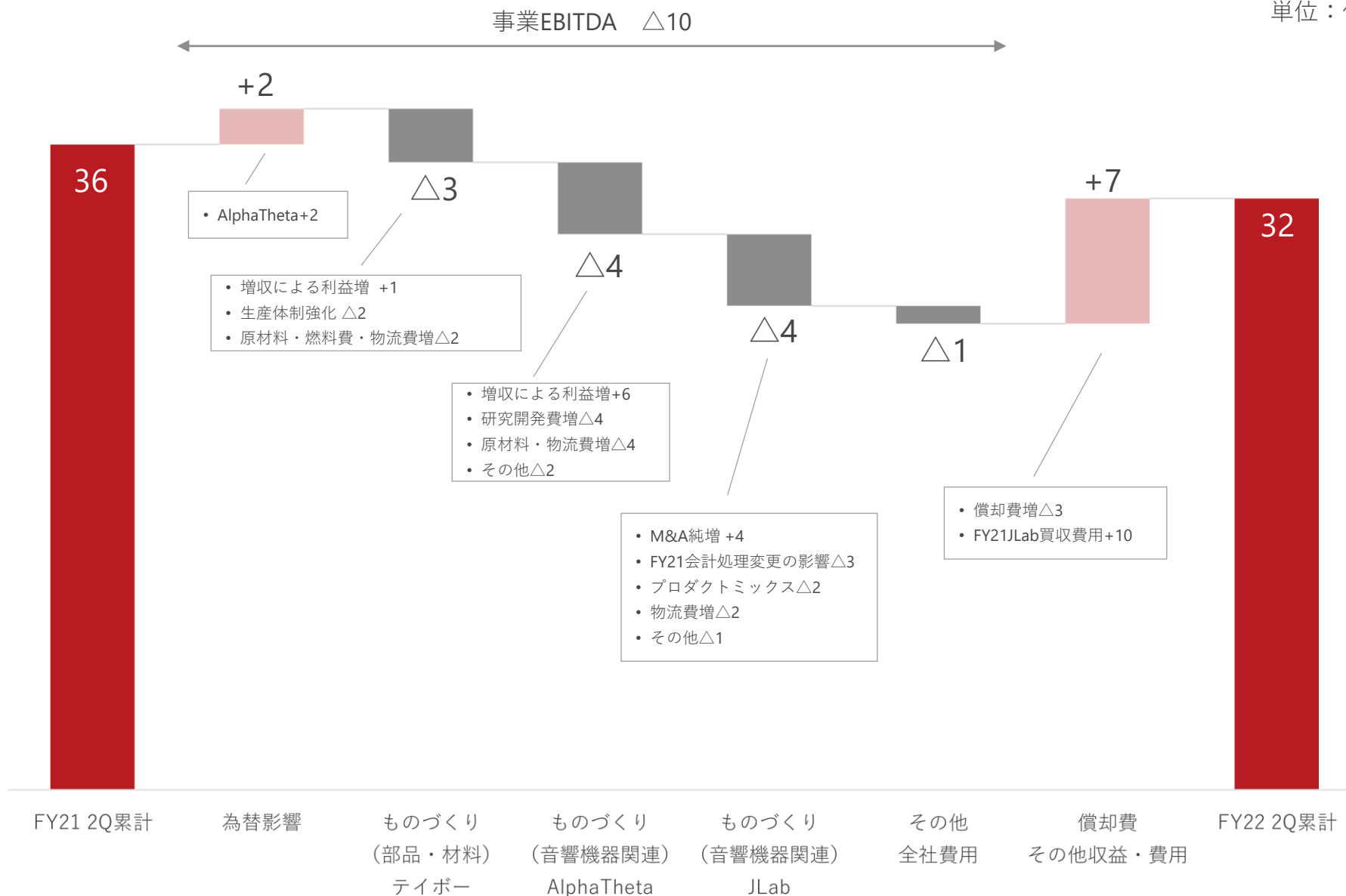
*JMDC株式の一部株式譲渡に伴い、FY22において医療情報に関する事業を非継続事業に分類しております。同様にFY21においても組み替えております。

	当初の想定	新たな課題
テイボー	<ul style="list-style-type: none"> 堅調な需要環境 生産体制強化による人件費増 	<ul style="list-style-type: none"> 中国のロックダウンによる販売影響（ペン先） 部品調達難による顧客の生産調整の影響（MIM） 原材料・燃料費・物流費等の想定以上の上昇
AlphaTheta	<ul style="list-style-type: none"> 堅調な需要環境 新商品や新サービスの展開 価格適正化 FY21からの期ずれ販売分 部品調達難による生産の制限 置換設計や市中在庫確保による原価及び物流費等のコスト上昇 研究開発投資の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 為替の円安進行 中国のロックダウンやウクライナ情勢等による販売影響及びリードタイムの更なる長期化
JLab	<ul style="list-style-type: none"> 米国の家電小売市場の成長鈍化 米国内のシェア拡大 米国外の堅調な成長 新商品の展開 物流費等のコスト上昇 	<ul style="list-style-type: none"> 為替の円安進行 リードタイム長期化による販売機会逸失（1Q） 米国の家電小売市場の想定以上の落ち込み 物流費等の想定以上の上昇

単位：億円



単位：億円



バランスシート の 状況

- FY22 1QからJMDCを連結除外
- 株式売却により現金性資産は大きく増加

単位：百万円	FY21 4Q	調整額	調整後 FY21 4Q ^{*1}	FY22 2Q	増減額
現金及び現金同等物	38,141	△14,459	23,682	104,853	① +81,171
売上債権及びその他の債権	21,865	△8,687	13,178	12,494	△684
棚卸資産	14,638	△280	14,358	18,786	+4,428
のれん	72,179	△19,367	52,812	55,030	+2,218
無形資産	83,065	△5,091	77,974	80,491	+2,517
その他資産	34,249	△12,509	21,740	70,916	② +49,176
資産合計	264,141	△60,393	203,748	342,570	+138,822
仕入債務及びその他の債務	13,282	△5,945	7,337	7,177	△160
借入金	95,619	△11,898	83,721	59,913	③ △23,808
その他負債	28,503	△12,396	16,107	65,651	④ +49,544
負債合計	137,404	△30,239	107,165	132,741	+25,576
資本合計	126,736	△30,154	96,582	209,828	+113,246
有利子負債	95,619	△11,898	83,721	59,913	△23,808
現金性資産	40,391	△14,459	25,932	159,526	⑤ +133,594
Net Debt	55,227	+2,561	57,788	△99,613	△157,401

主な増減要因

- ① 現金及び現金同等物+811億円
 - ・ 事業EBITDA+50億円
 - ・ 子会社株式の売却 +1,118億円
 - ・ 借入金の返済△276億円
 - ・ 配当金の支払△65億円
- ② その他資産+491億円
 - ・ 投資有価証券（JMDC株式）+523億円
- ③ 借入金△238億円
 - ・ 返済（期限前弁済含む）△276億円
- ④ その他負債+491億円
 - ・ 未払法人税の増加 +334億円
 - ・ 繰延税金負債の増加+154億円
- ⑤ 現金性資産+1,335億円
 - ・ 投資有価証券（JMDC株式）523億円含む

*1 2021年12月末のJMDCの公表数値を控除した参考値

セグメント別業績は下記のとおり

単位：百万円		FY21 2Q累計	FY22 2Q累計	増減額	増減率
ものづくり (部品・材料)	売上収益	5,953	6,298	+344	+5.8%
	事業EBITDA	2,148	1,853	△294	-13.7%
ものづくり (音響機器関連)	売上収益	17,095	24,673	+7,577	+44.3%
	事業EBITDA	4,269	3,578	△691	-16.2%
AlphaTheta	売上収益	14,255	16,820	+2,565	+18.0%
	事業EBITDA	4,134	3,897	△237	-5.7%
JLab	売上収益	2,840	7,852	+5,011	+176.5%
	事業EBITDA	134	△318	△453	-
その他・全社費用	売上収益	481	565	+83	+17.4%
	事業EBITDA	△308	△383	△75	-
連結合計	売上収益	23,530	31,536	+8,006	+34.0%
	事業EBITDA	6,110	5,049	△1,061	-17.4%

Contents

1. FY22 2Q累計 連結業績
2. FY22 通期連結業績予想
3. トピック

ものづくり（部品・材料）/テイボー

- ペン先の筆記は、堅調に推移。画材用の戦略商品の販売を見込む
- ペン先のコスメは、新型コロナの感染再拡大により中国市場の低迷が続く
- MIMは、3Qは顧客の生産調整の影響により伸びが鈍化するも4Q以降復調を見込む。MIMの新規売上（新規品の採用や新規顧客開拓）は予定通り進捗。素材開発の体制を強化し、MIMの採用分野の拡大を図る
- 価格適正化により対応するも、原材料、物流費、燃料費等の高騰が続き収益性が低下
- 原価低減活動や生産効率化の設備投資は予定通り実施

ものづくり（音響機器関連）/AlphaTheta

- クラブやイベント会場向けの販売も回復傾向で、需要は引き続き堅調に推移
- 中国ロックダウン等により一部サプライヤーからの部品供給が滞る等新たな部品の調達難が発生したこと、また、上半期の販売が好調であった反動から、3Qは供給及び販売が落ち込み、4Qは改善に向かう見込み
- 新商品や新サービスの研究開発投資は予定どおり継続実施
- 原材料や物流費の高騰が続く

ものづくり（音響機器関連）/JLab

- 上半期の低迷を下半期で挽回
- 米国の家電小売市場の伸びは鈍化するも、シェア拡大を見込む
- 米国以外の市場開拓は堅調に推移する見込み
- リードタイムの改善が進むが、物流費の高騰は続く

- 売上収益を上方修正するが、営業利益は2/22付修正予想から変更せず
- 上半期は、予想を上回ったが、AlphaThetaの部品の調達難の影響や、下半期のコスト上昇等の不確実性の高い状況を鑑みて、営業利益は据え置く
- 当期利益は、非継続事業からの利益が増加するため上方修正。一方、配当予想は、配当原資としている継続事業からの利益を据え置くため、2/22付修正予想から変更せず

単位：百万円		FY22 2/22付修正予想	FY22 8/12付修正予想	対2/22付 修正予想	FY21	対前期
売上収益		66,200	73,400	+7,200	54,481	+ 34.7%
事業EBITDA		11,800	11,800	-	10,739	+ 9.9%
事業EBITDAマージン		17.8%	16.1%	△1.7%	19.7%	-
営業利益		7,000	7,000	-	6,068	+ 15.4%
当期利益		97,700	102,600	+4,900	5,115	+ 1,905.7%
為替レート (平均)	米ドル (円)	108.0	125.0	+17.0	109.8	+15.2
	ユーロ (円)	128.0	133.0	+5.0	129.9	+3.1
為替レート (期末)	米ドル (円)	115.0	132.0	+17.0	115.0	+17.0
	ユーロ (円)	130.0	135.0	+5.0	130.5	+4.5

*JMDC株式の一部株式譲渡に伴い、FY22において医療情報に関する事業を非継続事業に分類しております。同様にFY21においても組み替えております。

- 部品・材料のテイボーは、コスメやMIMの落ち込みとコスト上昇等を織り込み、下方修正
- 音響機器関連のAlphaThetaは、部品の調達難とコスト上昇等のリスク及び上半期から続く好調な需要と為替影響を反映し、上方修正
- 音響機器関連のJLabは、売上収益は為替影響のみ織り込み上方修正するも、事業EBITDAはコスト上昇等を織り込み、2/22付修正予想を据え置き

単位：百万円		FY22 2/22付修正予想	FY22 8/12付修正予想	対2/22付 修正予想	FY21	対前期
ものづくり (部品・材料)	売上収益	13,300	12,700	-600	12,282	+3.4%
	事業EBITDA	4,300	3,600	-700	4,185	-14.0%
ものづくり (音響機器関連)	売上収益	51,700	59,500	+7,800	41,107	+44.7%
	事業EBITDA	8,400	9,100	+700	7,076	+28.6%
AlphaTheta	売上収益	31,000	36,000	+5,000	26,511	+35.8%
	事業EBITDA	6,000	6,700	+700	5,671	+18.1%
JLab	売上収益	20,700	23,500	+2,800	14,596	+61.0%
	事業EBITDA	2,400	2,400	-	1,404	+70.9%
その他・全社費用	売上収益	1,200	1,200	-	1,090	+10.1%
	事業EBITDA	△900	△900	-	△522	-
連結合計	売上収益	66,200	73,400	+7,200	54,481	+34.7%
	事業EBITDA	11,800	11,800	-	10,739	+9.9%

Contents

1. FY22 2Q累計 連結業績
2. FY22 通期連結業績予想
3. トピック

■ MIM開発センター外観



- 段階的に稼働させていた「MIM開発センター」の移転作業が2022年5月に完了、100%稼働を開始
- 延べ床面積約6,800平方メートルを有する「MIM開発センター」には、自動化や設備の大型化により、生産能力を2倍に拡大

■ 混練工程



【大型化】を実現
従来よりも大型の機材を導入し、
生産効率に貢献

■ 成形工程



【自動化】を導入
工程の一部にロボットを導入し、
自動化による無人対応を可能に

■ 脱脂・焼結工程



【生産拡大】
効率化を実現する設備レイアウト
とし、また設備増強により生産能力
を拡大

■NAMM Show 2022

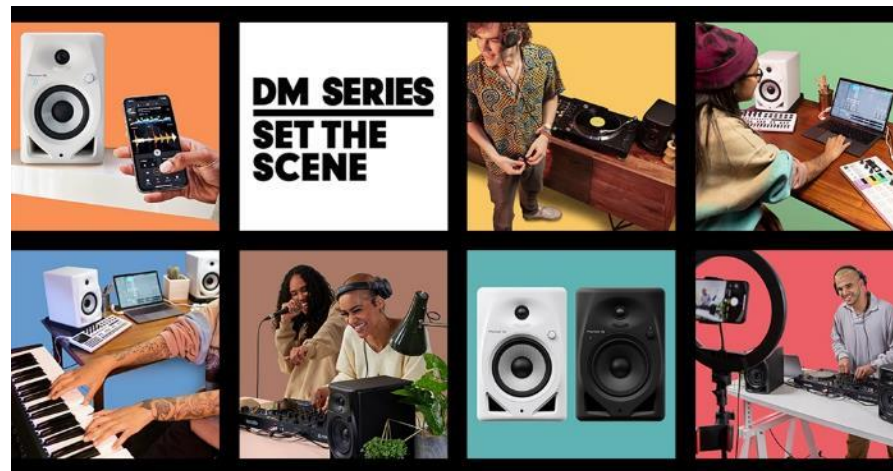
- 世界最大級の音楽イベント「NAMM Show 2022」(米国アナハイムで開催)に出展
- デスクトップモニターシステム「DMシリーズ」の新モデル(DJや、楽曲制作などシーンに応じて快適に使用できる新モデル)、グロスレッドカラーのSerato DJ Pro対応2ch DJミキサー「DJM-S5」(本格的なバトルDJスタイルの演奏を始めたい方に最適なDJミキサー)を展示

<会場のPioneer DJブースの様子>



■新製品リリース

デスクトップモニターシステム「DMシリーズ」新モデル

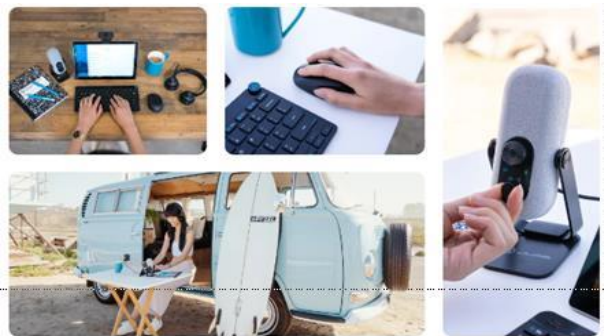


Serato DJ Pro対応2ch DJミキサー「DJM-S5」

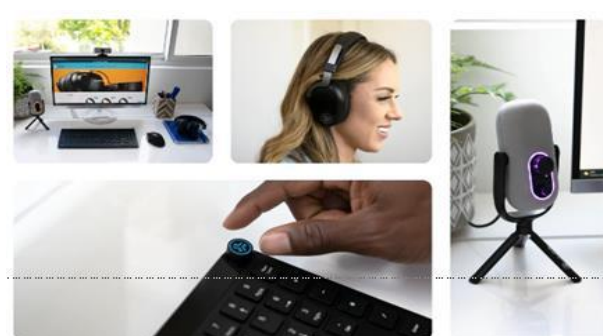


- ニューノーマルな生活様式にぴったりの「MEET WORK」シリーズの製品をリリース
- 自宅から、外出先から、どこでも仕事ができる使いやすいガジェットを続々と販売
- マウス・キーボードはもちろん、ウェブカメラやマイクまで、「GO」「JBUDS」「EPIC」と3ブランドからニーズに合った価格帯・機能をラインナップ

■ 移動が多い方に最適な
「GO」シリーズ



■ 機能のバランスが良い
「JBUDS」シリーズ



■ 究極の仕事環境を
提供する「EPIC」シリーズ



Appendix

為替の各事業への影響について

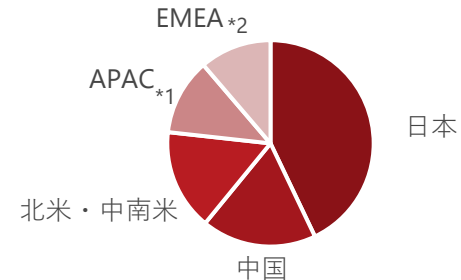
- 米ドル及びユーロ取引が多いAlphaTheta及びJLabで影響あり
- 円安はグループ全体では営業利益プラスに

概要

FY21 地域別売上収益構成比

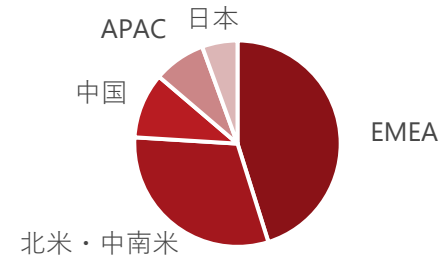
テイボー

- グローバルで販売及び仕入ともに円貨取引が基本のため**対米ドル、対ユーロともに影響は僅少**



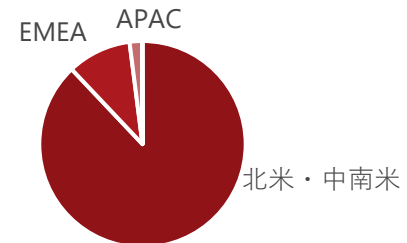
AlphaTheta

- 販売は各地域通貨を基本とし、仕入は米ドル
- EMEAの売上収益が大きいいため、**対ユーロで円安は利益プラス**
- 北米を中心とする米ドルでの売上収益が仕入をやや下回るため、**対米ドルで円安は利益マイナス**



JLab

- 販売は各地域通貨を基本とし、仕入は米ドル
- 米国の売上収益が大きいいため、**対米ドルで円安は利益プラス**
- 米国以外は売上収益がまだ小さいため影響は軽微



*1 APACは、アジア、オーストラリア（日本、中国を除く）

*2 EMEAは、ヨーロッパ、中東、アフリカ

為替の通期連結業績への影響は以下のとおり

※2022年8月12日更新

為替レート（平均）の1円円安による影響額

通貨	FY22予想 為替前提	売上収益	事業EBITDA/営業利益
米ドル	125.0円	+2.8億円	+0.1億円
ユーロ	133.0円	+0.9億円	+0.9億円

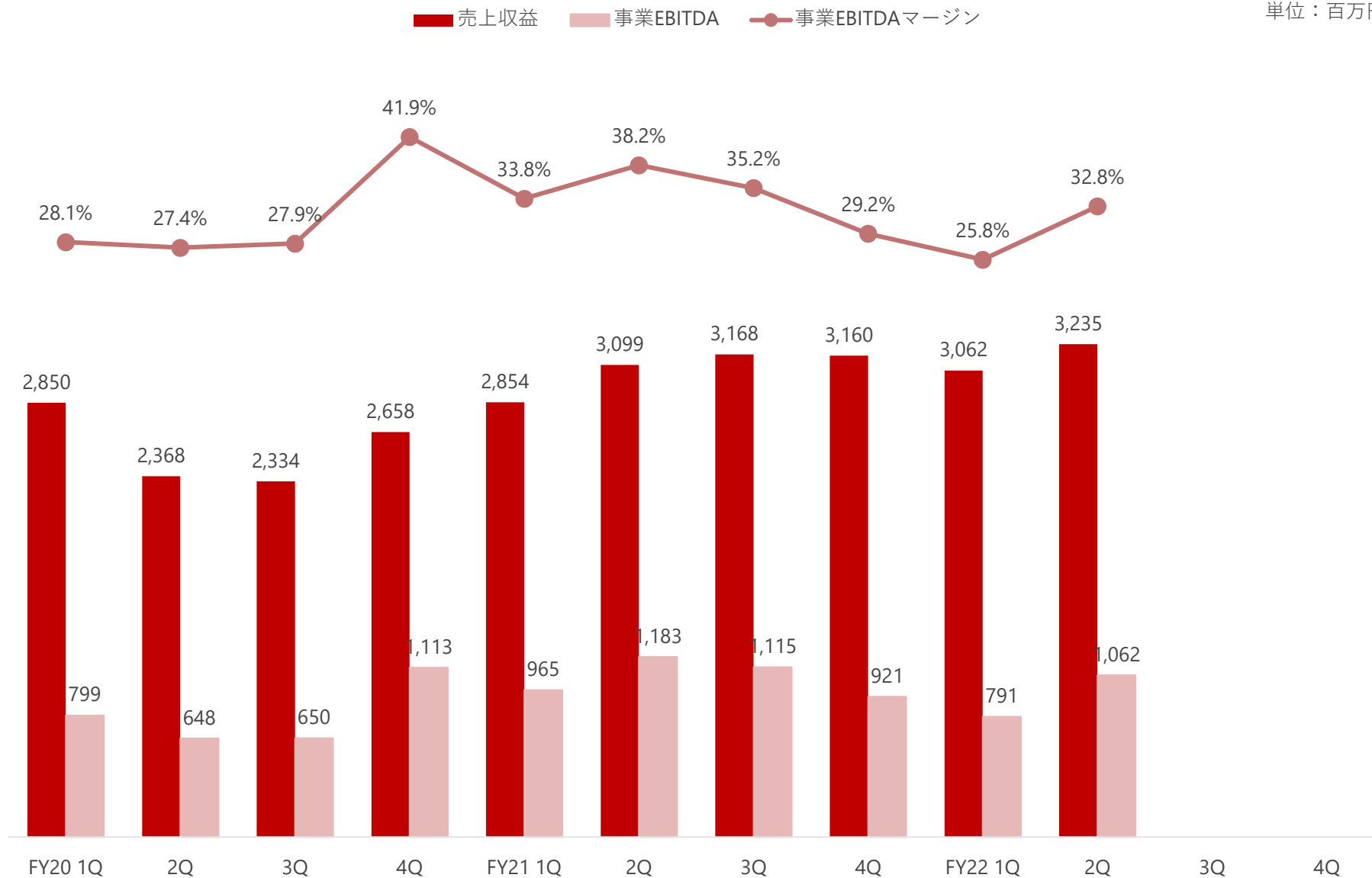
為替レート（期末）の1円円安による影響額

通貨	FY22予想 為替前提	税引前利益
米ドル*1	132.0円	+2.6億円
ユーロ*2	135.0円	△2.0億円

*1 外貨建て貸付金（グループ内）の評価替えによる為替差損益。回収に伴う残高減少に伴い影響額は減少

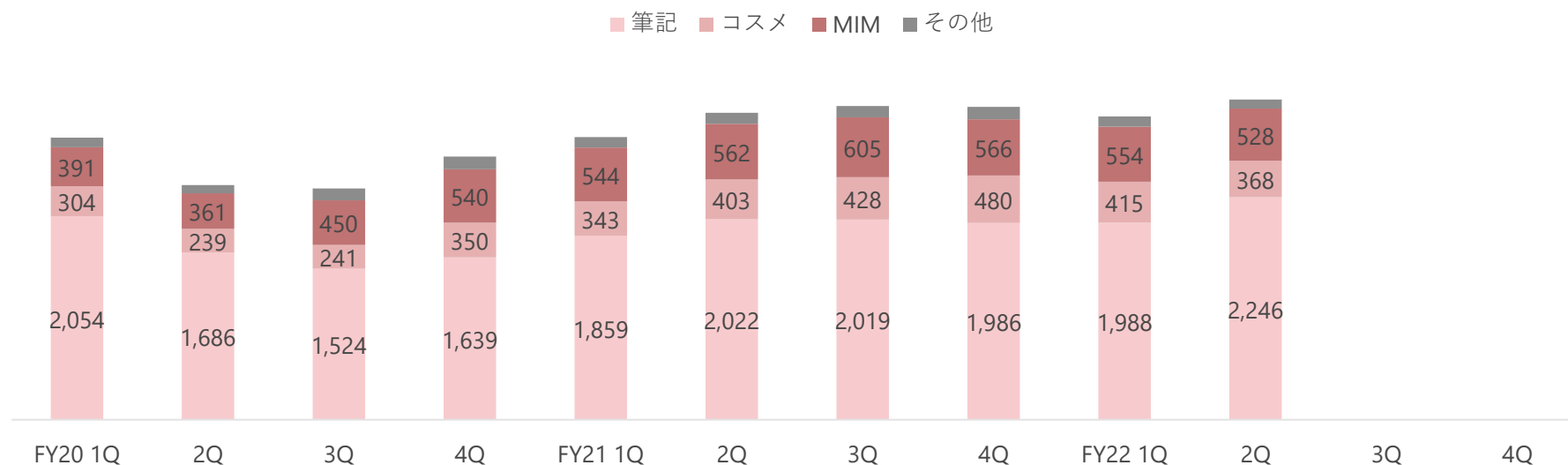
*2 外貨建てローンの評価替えによる為替差損益。返済による残高減少に伴い影響額は減少

単位：百万円



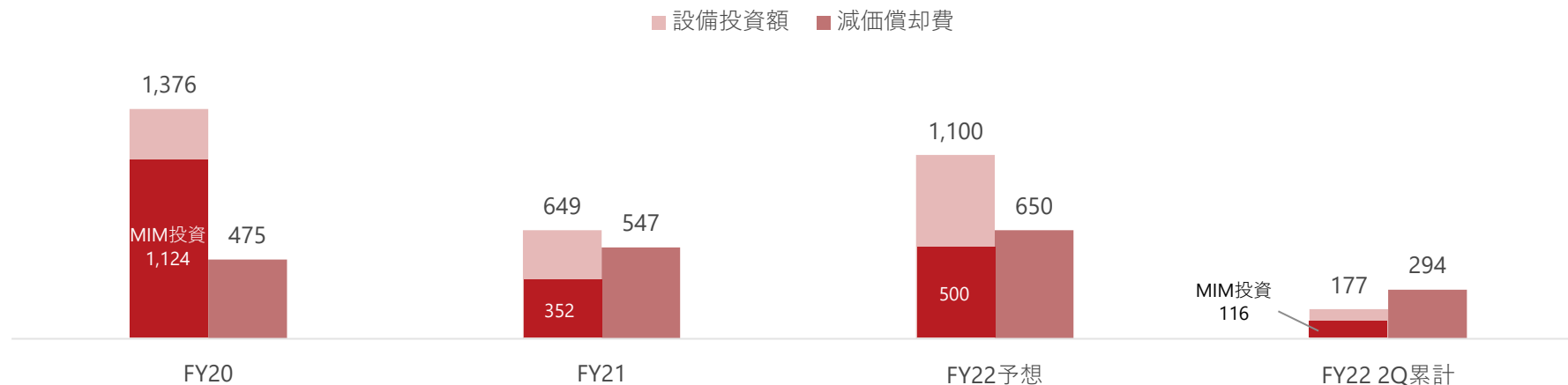
カテゴリ別売上収益推移

単位：百万円



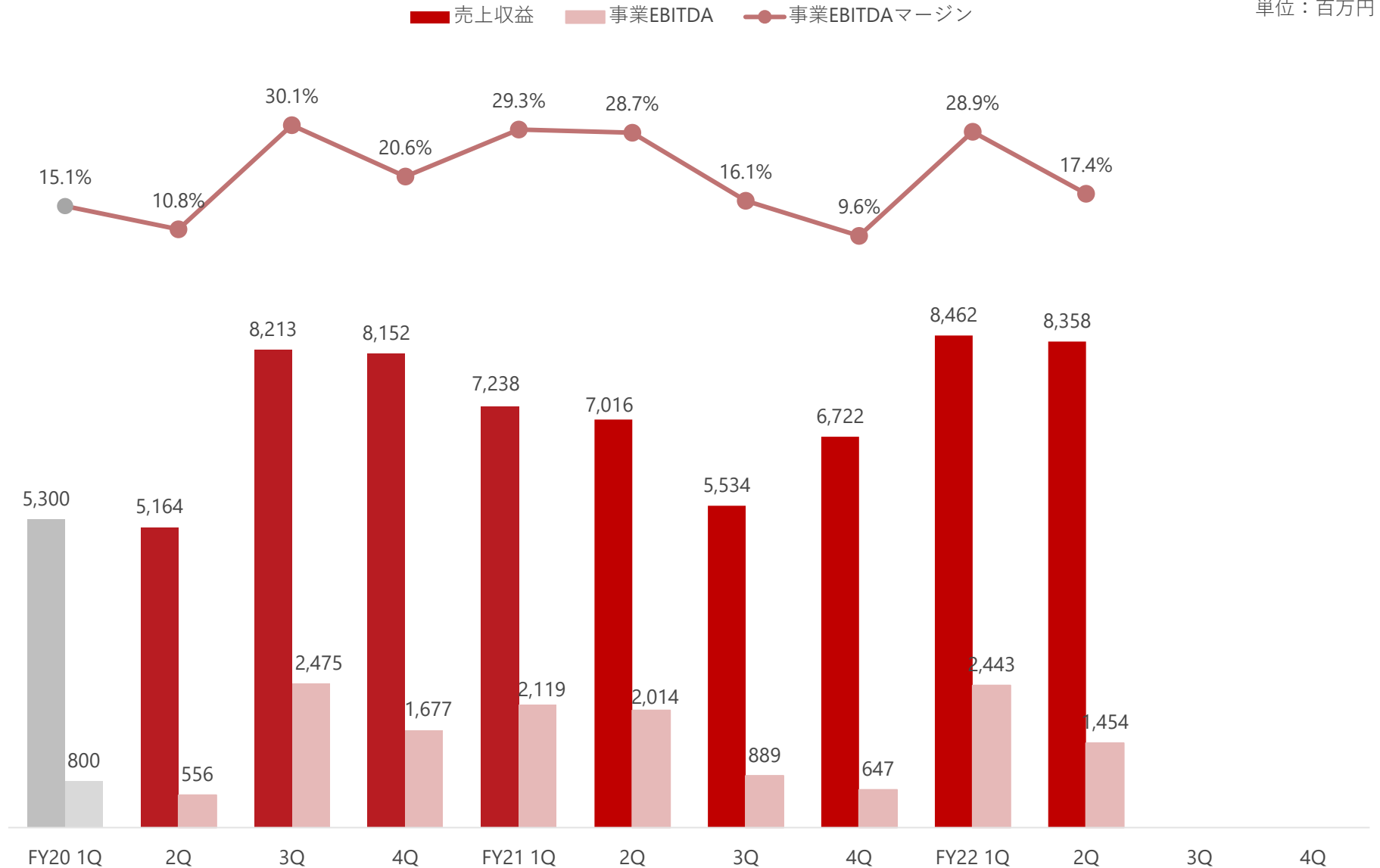
設備投資・減価償却費 *1

単位：百万円



*1 使用権資産に係る償却費及びPPAの償却費を除く

単位：百万円



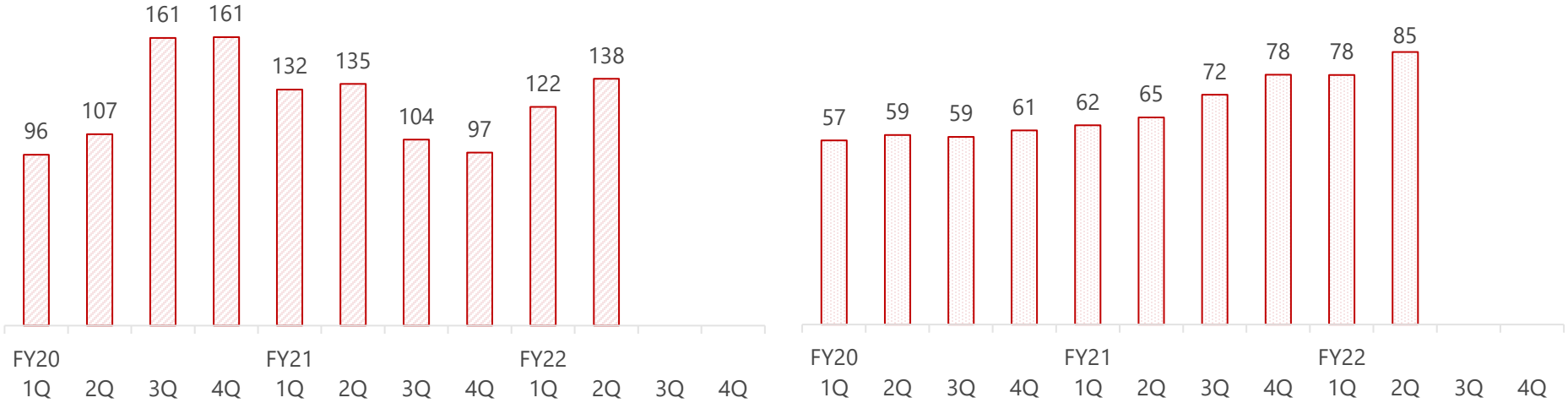
*グレーの期間は、グループ外のため参考値

DJ機器出荷台数

単位：千台

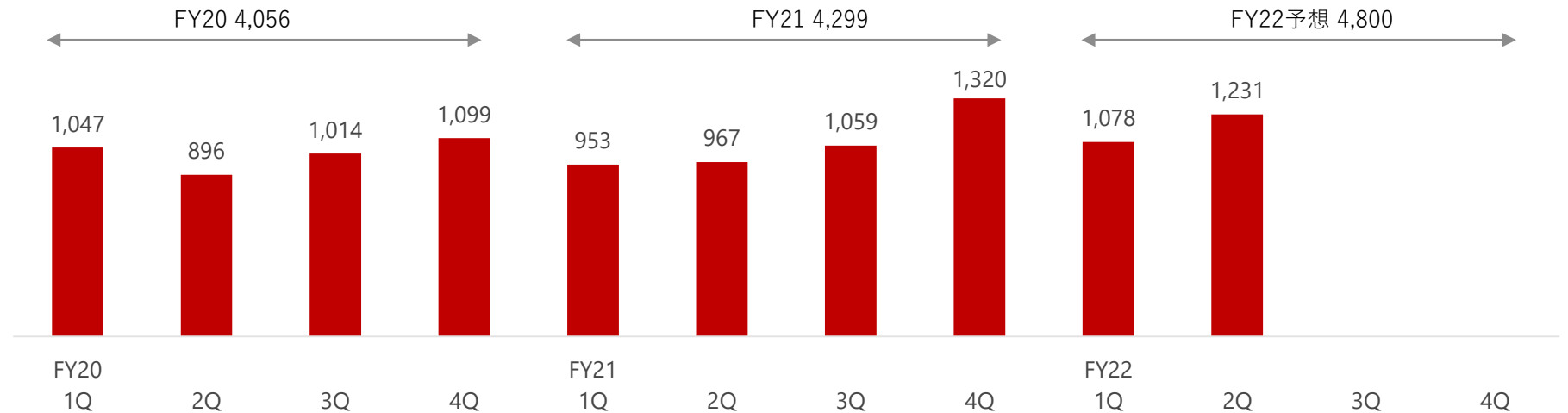
DJ向けアプリケーションMAU

単位：万人

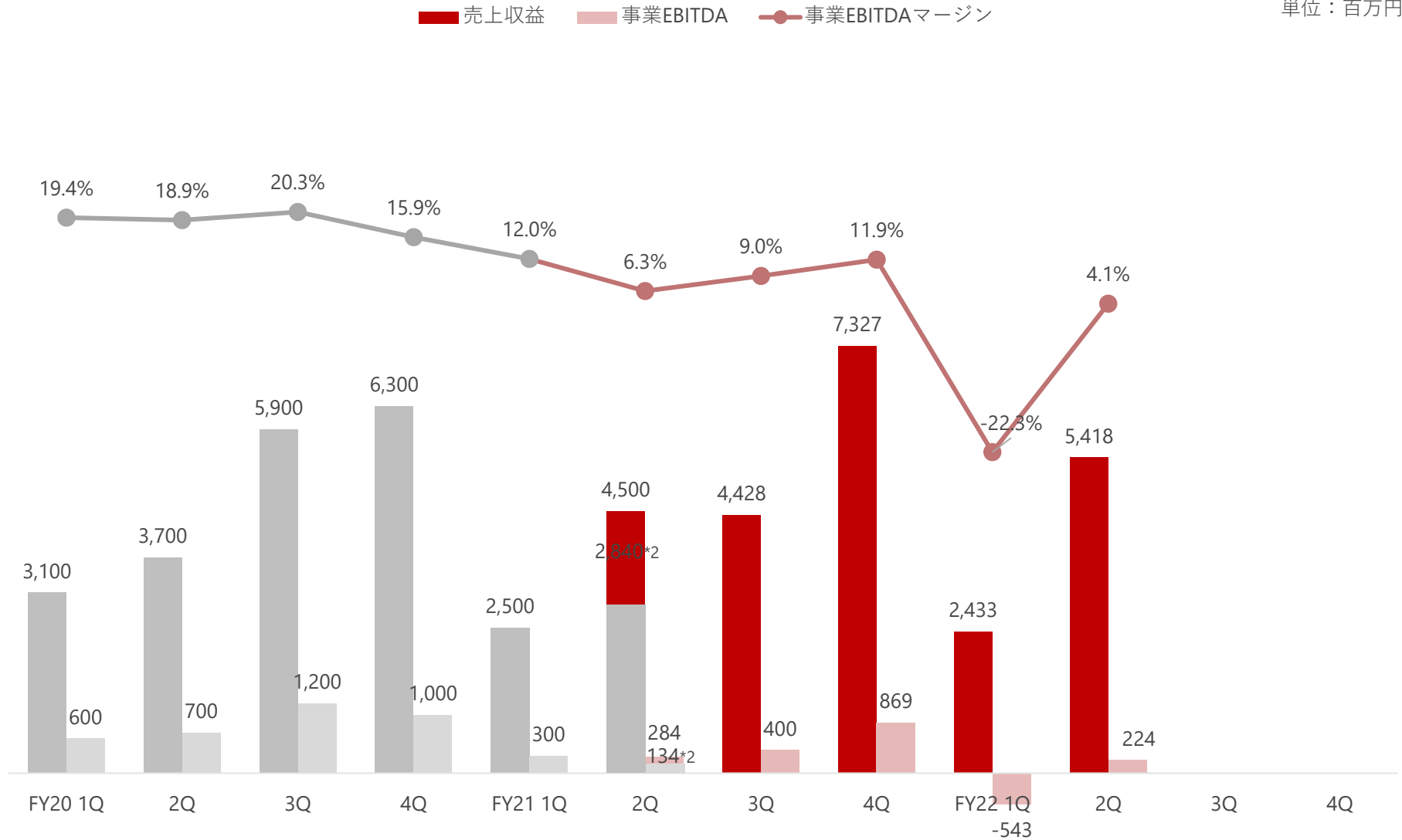


研究開発費

単位：百万円



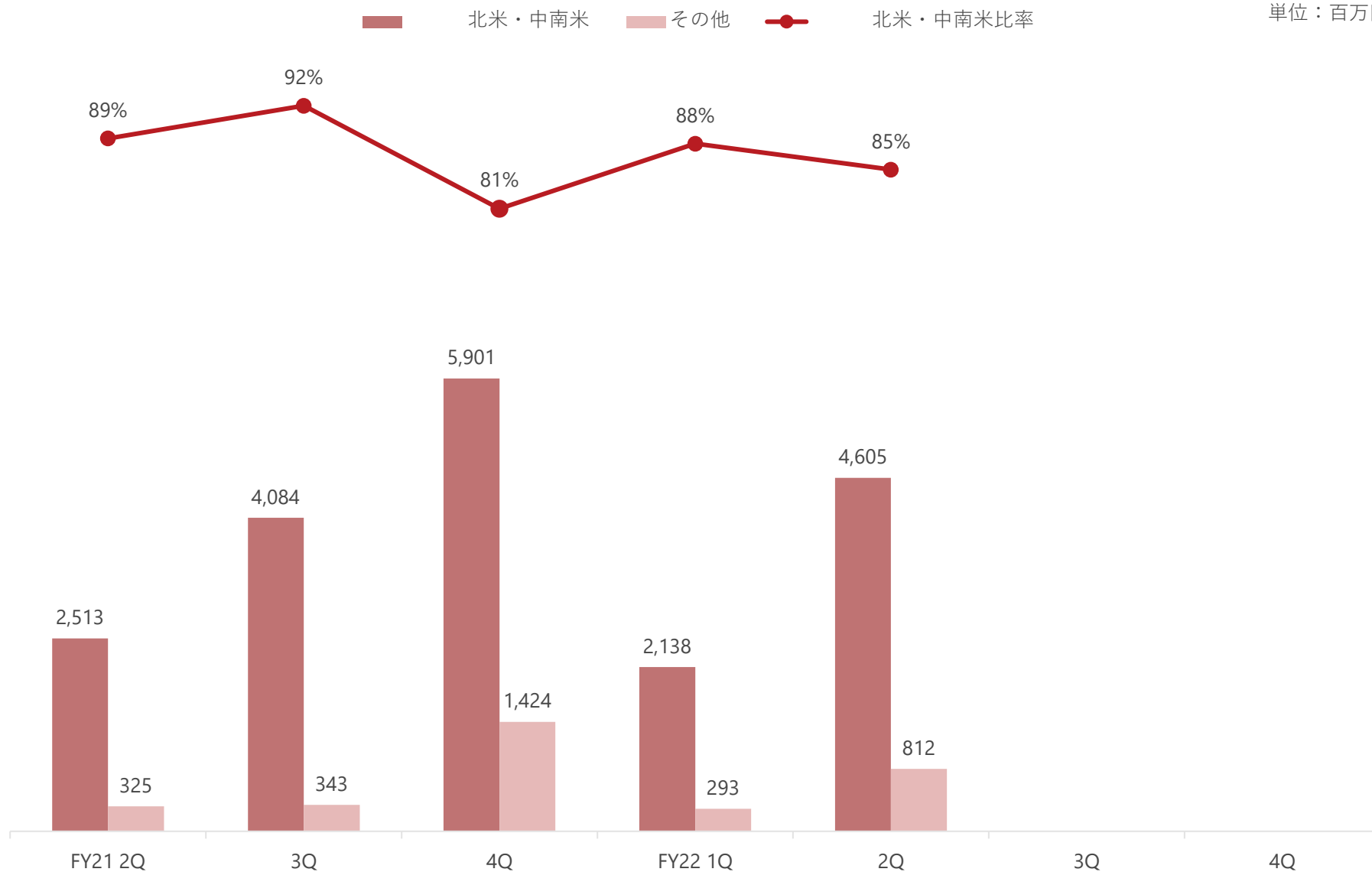
単位：百万円



*1 グレーの期間は、グループ外のため参考値。米国会計基準。1米ドル106円で換算

*2 2021年5月にグループ入りした以降の金額

単位：百万円



*2021年5月にグループ入りした以降の金額

社名 ノーリツ鋼機株式会社（東証プライム市場：7744）

代表者 代表取締役CEO 岩切 隆吉

創業 1951(昭和26)年6月

設立 1956(昭和31)年6月

資本金 7,025,302,000円

本社 東京都港区麻布十番1-10-10 ジュールA 5階

取締役	岩切 隆吉	取締役 (監査等委員)	太田 晶久
	横張 亮輔		伊庭野 基明
	大塚 あかり		高田 剛

部品・材料

先端及び極小部材の製造事業

テイボー株式会社

会社名 テイボー株式会社
代表者 代表取締役会長 高原建司
資本金 50百万円
主要株主 ノーリツ鋼機株式会社
事業内容 筆記分野ペン先部品（フェルト、合成繊維、プラスチック）、非筆記分野、先端部材、MIM製造部品、コスメ用ペン先部材（合繊芯、プラスチック芯、ポリブチレンテレフタレート樹脂（PBT）ブラシなど）等の製造・販売

■グループ会社

泰宝制筆材料(常熟)有限公司（テイボー100%子会社）
 ・マーキングペン先部品の中国（江蘇州）における製造・販売拠点

株式会社 soliton corporation（テイボー100%子会社）
 ・コスメ用ペン先部材の製造・販売

音響機器関連

音響、音楽制作機器の商品開発事業

AlphaTheta株式会社

会社名 AlphaTheta株式会社
 （旧Pioneer DJ株式会社）
代表者 代表取締役社長 片岡芳徳
資本金 1億円（2021年12月31日現在）
主要株主 ノーリツ鋼機株式会社
事業内容 DJ/CLUB機器、業務用音響機器、音楽制作機器の商品開発・設計・及び販売、ならびにそれらのサービスに関する事業

■販売子会社

AlphaTheta EMEA Limited
AlphaTheta Music Americas, Inc.
AlphaTheta (Shanghai) CO., Ltd.

音響機器関連

パーソナルオーディオデバイス製品事業

PEAG, LLC dba JLab

会社名 PEAG, LLC dba JLab
代表者 Winthrop Cramer, CEO
資本金 26M USD（2020年12月31日現在）
主要株主 ノーリツ鋼機株式会社
事業内容 パーソナルオーディオデバイス及びテクノロジー製品の設計及び販売

NORITSU

本資料に記載されているいかなる情報も、当社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。
また、当社は当資料の内容に関し、いかなる保証をするものでもありません。

本資料に記載されている当社の現在の計画、戦略等のうち、歴史的事実でないものは、現時点において見積もられた見通しであり、
これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。
実際の業績は、様々な要因やリスクにより大きく異なる結果となる可能性があり、
いかなる確約や保証を行うものではありません。